

令和 3 年 9 月 26 日

情報科学若手の会の皆様

そこら辺にいる研究員

nersonu

第 54 回情報科学若手の会ダミーデータ

風に揺れるすすきに風情を感じる爽秋の候、皆様におかれましては、ますますご活躍のことと拝察しております。平素より格別のご愛顧を賜り、御礼申し上げます。

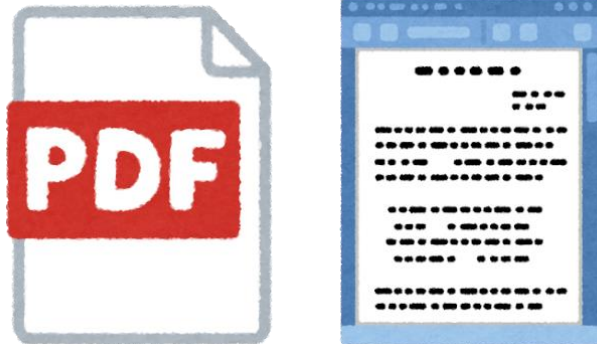
さて、本日は本 PDF ダミーデータを用いまして、Python を用いた PDF データからの情報抽出デモを行いたいと考えております。ぜひ御覧ください。

1. 箇条書き

箇条書きのテスト

2. 画像情報

画像情報のテスト



3. 表情情

表情情のテスト

	メートル・グラム	ヤード・ポンド	尺・匁
長さ	1	1.0936	3.3
重さ	1	0.0022	0.2667

複数ページのための 2 ページ目（以下は、夏目漱石の『ころ』）

私わたくしはその人を常に先生と呼んでいた。だからここでもただ先生と書くだけで本名は打ち明けない。これは世間を憚はばかりの遠慮というよりも、その方が私にとって自然だからである。私はその人の記憶を呼び起すごとに、すぐ「先生」といいたくなる。筆を執とっても心持は同じ事である。よそよそしい頭文字かしらもじなどはとても使う気にならない。

私が先生と知り合いになったのは鎌倉かまくらである。その時私はまだ若々しい書生であった。暑中休暇を利用して海水浴に行った友達からぜひ来いという端書はがきを受け取ったので、私は多少の金を工面くめんして、出掛ける事にした。私は金の工面に二に、三日さんちを費やした。ところが私が鎌倉に着いて三日と経たないうちに、私を呼び寄せた友達は、急に国元から帰れという電報を受け取った。電報には母が病気だからと断ってあったけれども友達はそれを信じなかった。友達はかねてから国元にいる親たちに勧すすまない結婚を強しいられていた。彼は現代の習慣からいうと結婚するにはあまり年が若過ぎた。それに肝心かんじんの当人が気に入らなかった。それで夏休みに当然帰るべきところを、わざと避けて東京の近くで遊んでいたのである。彼は電報を私に見せてどうしようと相談をした。私にはどうしていいか分らなかった。けれども実際彼の母が病気であるとすれば彼は固もとより帰るべきはずであった。それで彼はとうとう帰る事になった。せつかく来た私は一人取り残された。